

全日本選手権大会実施報告書

(兼 J S A F 共同主催大会実施報告書)

2020年9月30日

(公財) 日本セーリング連盟 御中

報告団体名 日本オープンスキフクラス協会

代表者 諏訪 禎男 押印省略

住 所 兵庫県西宮市西波止町1-2

大会の名称	第9回オープンスキフクラス全日本選手権2020
J S A F 承認番号	R02-
実施日時	2020年9月19日(金)～9月22日(祝)
開催場所	西宮市ウインドワードオーシャンクラブ
クラス	オープンスキフクラス
参加艇数	11
主催又は共同主催団体	日本オープンスキフクラス協会 (JOSCA)
レース委員長	吉田美作
レースオフィサー	山岡閃
公式計測員	信國慶彦
プロテスト委員長	山岡閃
問合せ先と電話番号	0798-33-9000
E-mail address	info@josca.net

上記大会が滞りなく実施されたことを報告いたします。

◆競技結果 別添

* クラスが複数の場合には、コピーペーストして追加願います。

◆参本大会の前に各水域等で予選会が行われたか、その有無を記載して下さい。

予選会 有

無

◆添 1 成績表(全体) *電子データでお願いします。 別添

2 写真(環境キャンペーン事業の場合には必須)

3 大会ホームページのURL <http://josca.jp/>

以上

(公財) 日本セーリング連盟 御中

レガッタ・レポート

提出日: 2020年9月30日

報告者: プロテスト委員長

氏名 山岡 閃

email senyamaoka@nifty.co

大会概要

大会名	第9回オープンスキフクラス全日本選手権2020						
承認番号	R02-						
日程	2020年9月19日(金)~9月22日(日)4日間						
開催地	西宮市ウインドワードセーリングクラブ						
主催団体	日本オープンスキフクラス協会(JOSCA)						
クラス	U-13	U-17					(合計)
クラス別参加艇数	4	7					11
クラス別レース数	24	24					24
ジュリーポート艇数	2艇		ジュリー用無線		有		

推進方法違反の数(附則P適用の場合のみ記入)

原則 規則42.1	0	1回目の違反 規則P2.1	1
パンピング 規則42.2(a)	0	2回目の違反 規則P2.2	0
ロッキング 規則42.2(b)	1	3回目以降の違反 規則P2.3	0
ウーチング 規則42.2(c)	0	(合計)	1
スカリング 規則42.2(d)	0		
繰り返しのタック/ジャイブ 規則42.2(e)	0		

抗議等の数

UMPIRED FLEET RACING - O'pen Skiff Classを適用

審問の数

	艇	RC	PC	合計	規則69	0
抗議	2			2	規則2	0
救済要求			※	0	その他	2
審問再開要求			※	0	(合計)	2

※PCによる救済考慮/審問再開

全ての抗議書及び判決書を添付して下さい。

可能な限りPDFファイルでemailに添付してください。

紙で添付する場合には、本レポートを印刷したものと共にJSAF事務局宛て郵送してください。

プロテスト委員・事務局員

氏 名	役割※	資格※	特記事項※
山岡 閃	委員長	NJA	
細川 義明	委員	NJA	
梶田 隆	委員	NJB	
間 健治	委員	NJB	
抜井 康樹	委員	NJB	
柏木 亨	委員	NJB	

※資格欄には、IJ/A級/B級/無しを記入。

※役割欄には、委員長/委員/事務局長/事務局など大会での役割を記入。

※特記事項欄には、出欠状況のほか、当該委員についてコメントすべき事項があれば記入。

特記事項

審問、レース運営、帆走指示、大会運営、競技者からの質問や要望など、特筆すべき事項があれば記入して下さい。

1. 2012年にクラス協会のJSAF加盟が承認され、今回が第8回の全日本選手権であった。また、昨2019年7月にはクラス名がオープンビックからオープンスキフに変更され、国内においても日本オープンスキフクラス協会（JOSCA）と名称変更がされた。

2. 参加艇数は11艇、昨年の22艇から半減したが、これも偏にコロナ禍が引き起こした災難としか言いようのないものである。クラス協会としては最後の最後まで開催の是非を検討し、可能な限りの万全の対策を講じたことを確信し、開催に踏み切った。

3. こうした厳しい環境下にも拘わらず、北海道、江の島、清水、西宮の4つのフリートから参加があり、徐々にではあるが全国区への浸透の兆しを感じるようになってきた。

4. 特筆すべきは、海外籍のセーラーの参加があったことである。昨年の全日本選手権にはオーストラリア・メルボルンのビッグクラブであるBlairgowrie Yacht Squadron から男女6名が参加したことに続き、本年も第2弾として同じオーストラリア籍（小樽市在留）の選手であった。ご両親、妹さんも同行。国内選手にとって、刺激的なレースが展開できたこと、国際交流を身近に体験できたこともあり、一段と華やかな大会となった。

5. レースは、4日間24レースを予定し、全24レースを完了。国内で行われている全日本選手権大会ではおそらく最大のレース数であったのではないかと推察される。レース時間が短いにせよ、残暑厳しき中での『全選手全レース帆走』には大きな賛辞を贈りたい。

6. レース海面は兵庫県立海洋体育館沖と前。コースは従前の「変形トライアングル」に加え、今回から「スピード・スラローム」も採用。必須の360°回転、必須の転覆、スタンディングを含めたジャイビング多用のエキサイティングなレースを満喫したに相違ない。

7. レース委員長をはじめとしたレース委員は大半が現役のセーラーであり、またオープン・スキフの特性を熟知しており、クラス規則、チャンピオンシップ規則に沿ったセーラー・ファーストの運営を展開した。各コースのマーク数が9個の多きにわたる中、風の強弱、振れに合わせた迅速なコース設定は賞賛に値する。

8. 全日本チャンピオンは、U-17の女子選手が獲得した。女子が2年連続チャンピオンとなったことで、スキフの可能性を体現したことは特筆すべきである。

以上